

地理学教室便り (2015年度)

本誌『お茶の水地理』52号より、地理学教室教員が編集を担当し、毎年刊行してきましたが、OGからなる同窓会と、現教員を中心とする地理学教室の共同の発表の場として、これからも紙面が構成されていくこととなります。毎回この教室便りの欄で、本学の教育・研究コレクション「TeaPot」を紹介していますが、そこでバックナンバーをすべて読むことができます(URL <http://www.lib.ocha.ac.jp/oab/26chiri/listOfIssue.html>)。現在でも本誌の新旧の論文、卒論・修論要旨等の中で、ときどき「TeaPot」月間・週間のダウンロード・ランキングに載るものがあります。

2015年度の地理学教室の構成員を紹介します。専任教員は、これまでと同様、学部地理学コースに水野、宮澤、長谷川(主任)の3名が、そしてグローバル文化学環に熊谷がそれぞれ在籍しています。大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻地理環境学コースでは、専任教員として熊谷(代表)、水野、宮澤、長谷川の4名が、そして兼任教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授(国際関係論)、荒木准教授(開発研究、アフリカ地域研究)が、教育・研究指導を担当しています。これら6名の教員は全員、大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻の教員です。水野は、2015年度に、ジェンダー社会科学専攻長を務めました。地理学教室事務室のアカデミック・アシスタント(AA)は、前期には古野、須藤、後期には古野、橋本が担当しました。お茶の水地理学事務局は、土屋が担当しました。

2015年度の非常勤講師の先生方は、以下の通りです。学部のコア科目・LA(リベラルアーツ)において、鈴木智恵子、吉岡由希子、伊藤修一、片岡久美(以上、情報処理演習)の各先生方、齊藤長行(情報社会の安全保障)、地理学コースの専門科目では、伊藤達也(地理環境学演習I)、米家志乃布(地理環境学演習II、地理学フィールドワークB)、齋藤元子(文化地理学演習、地理学英書講読)、小堀昇(地図学)、中山大地(測量学)、佐々木リディア、今野絵奈、目代邦康、森本泉、大城直樹、横山俊一(以上、地理学フィールドワークB)、大学院では湯澤規子(環境文化論)の各先生方に担当していただきました。講師の先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

学部地理学コースの学生は、2年生が11名、3年生が7名、4年生が15名でした。進学者数が年度によって上下しますが、10名前後で推移しています。地理環境学副プログラム(他のコースを主としつつも、副専攻として地理学のプログラムを選ぶ)の学生が、2013年度2名、2014年度2名、2015年度7名と若干増えつつあります。また本学が短期、長期の海外留学を促進していることもあり、本コースでも2名が長期留学から帰国(中国、フィンランド)、2名が長期留学へ出国(イタリア、イギリス)しました。春季や夏季の短期留学を利用して、海外で勉強してきた学生が何人かいます。学部地理学コースでは、海外提携校への長期留学と地理学コースの必修科目の履修調整を行い、4年間で卒業できる履修モデルを開発し、留学しやすい教育環境を作りました。今年度卒業した12名の学生の進路は、民間企業(6名)、公務員(4名)、法人(1名)、進学(1名)でした。大学院博士前期課程では3名が、博士後期課程では1名が新たに入学し、院生数は全部で14名でした。大学院博士前期課程修了者3名の進路は、民間企業、大学院博士後期課程、大学院研究生、でした。また博士後期課程では、久島桃代さんが課程博士論文を提出し、3月修了となりました(博士論文要旨は、本誌掲載)。また三原昌巳さん、謝陽さんは、本学大学院人間文化創成科学研究科研究院研究員として、研究活動を行っています。

地理学教室教員が2015年度に参加した主な教育研究プロジェクトには、全学震災復興支援プロジェクトチームとして、水野は教育科学、保育児童学、附属学校園の先生方とともに、2015年12月に実地視察を、2016年2月に学修ボランティアを行いました。また本学共同研究用経費助成(課題名「広展開する公共性再編—被災地岩手県陸前高田市のコミュニティ再建と支援」：代表者小林誠)を得て、小林は2015年9月、熊谷は11月に、学部学生を連れて岩手県陸前高田市を訪ねました。これらの実習やボランティアについては、その一部を本学公式HP(グローバル文化学環HP、お茶大ニュースほか)で知ることができます。これら以外に、教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており、その内容については本学公式HPの「学部・大学院」→「研究者情報」をご覧ください。

最後に、2015年度に実施した巡検の一覧と、教室構成員が公表した主な研究成果一覧を掲載します。8月に実施した八戸巡検の内容については、本誌の巡検報告をご覧ください。

構成員一同、地理学の教育・研究にこれからも着実に努力していく所存です。本誌のさらなる愛読と、これからもご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

(2015年度学部地理学コース主任 長谷川直子)

2015年度実施の一日巡検・大巡検（一覧）

- 4月 御茶ノ水（水野）
一日巡検の事前授業（水野）
- 5月 成城・田園調布（宮澤）
文京区（長谷川）
- 6月 和光～成増（長谷川）
伊勢原市（今野）
- 7月 秋留台地（目代）
- 8月 八戸（大巡検，宮澤）
- 9月 神楽坂（米家）
- 10月 等々力溪谷（佐々木）
多摩ニュータウン（宮澤）
- 11月 東京下町（水野）
- 12月 気仙沼（水野）
エコプロ（長谷川）
- 1月 多摩川（目代）
新大久保（森本）
- 2月 練馬・中野（横山）
- 3月 港区（大城）

（以上のほかに、グローバル文化学環が実施する巡検があり、地理学コースとの間で巡検履修の相互乗り入れをしています）

2015年度に公表した主な研究成果（一覧）

執筆物

お茶の水女子大学ガイドブック編集委員会 編，長谷川直子・横山俊一監修 『地理×女子＝あたらしいまちあるき』古今書院. 128p.

久島桃代 2015. 空間・身体・「障害」－英語圏地理学における障害研究の動向から. 人文地理 67(2) : 1-19.

Kumagai, K., Nakamura, Y. and Oda, T. 2016. Fieldwork

practice and commitment at tsunami-hit area: Ochanomizu University's students in Rikuzentakata-City. Iwate Prefecture, Japan. お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環『震災の記憶を語り継ぎ、今、陸前高田から考える』(2014年度「地域研究実習Ⅱ」「地域調査方法論演習」報告書) : 77-85.

佐藤香寿実 2016. フランス・アルザス地方の「コンコルダートのライシテ」と非公認宗教としてのイスラーム. 上智ヨーロッパ研究 8 : 61-81.

謝陽 2016. 留学生フィールドワーカーのポジショナリティー－長野県檜川地区と中国湖北省の調査から. 地理 61(3) : 70-79.

長谷川直子 2015. 地理学の巡検と旅行の違いを探る－一日巡検授業実践報告. お茶の水地理 54 : 31-34.

長谷川直子 2015. ご当地グルメを通じて風土を理解する(1) 地理的視点とご当地グルメ. 地理 60(5) : 7-13.

長谷川直子 2015. ご当地グルメを通じて風土を理解する(2) いもなはなし. 地理 60(6) : 53-55.

長谷川直子・竹村一男 2016. ご当地グルメを通じて風土を理解する(6) 消え行く宝のはなし. 地理 61(1) : 96-102.

松本江利奈・宮澤 仁 2015. 東京都世田谷区におけるコミュニティサイクルの利用特性. 季刊地理学 67 : 69-86.

三浦尚子 2016. 精神障害者の地域ケアにおける通過型グループホームの役割－「ケア空間」の形成に注目して. 人文地理 68 : 1-21.

Miyazawa, H. and Moriguchi, F. 2015. Education support for foreign children: Local citizen action groups in Hamamatsu City. In *International migrants in Japan: Contributions in an era of population decline*, ed. Y. Ishikawa, 171-194. Balwyn North: Trans Pacific Press.

口頭発表・講演・ポスターセッション

久島桃代 2015. 青苧生産者の身体知と若い女性移住者の非表象地理－福島県昭和村のからむし生産の現場から. 2015年人文地理学会大会(大阪大学).

Kumagai, K., Nakamura, Y. and Oda, T. 2015. Fieldwork practice and commitment at tsunami-hit area: Ochanomizu University's students in Rikuzentakata-City. Iwate Prefecture, Japan.

- The American Association of Geographers 2015 Annual Meeting. Chicago.
- Kumagai, K. 2015. Can *wantok* networks be Counter-publics?: Development and public space in urban Papua New Guinea. University of Papua New Guinea. Port Moresby.
- 熊谷圭知 2015. パプアニューギニア社会の発展と日本一草の根の視点から. パプアニューギニア独立40周年記念講演会 (お茶の水女子大学).
- Kumagai, K. 2016. Reflection on local sensitivity from the Japanese sense of '*fudo*' (milieu). The American Association of Geographers 2016 Annual Meeting. San Francisco.
- 小森梨恵 2016. 目黒区自由が丘におけるイメージ評価の分析ー利便性, 親密性, 流行性, 安全性の観点から. 全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (東京学芸大学).
- 佐藤香寿実 2015. スケールの構築と「イスラーム空間」の生成ーフランス・ストラスブール市における大モスク建設を事例に. 2015年人文地理学会大会 (大阪大学).
- 谷口博香 2015. グローバル都市における移民のエスニック空間の多様性ー東京圏に在住するバングラデシュ人を事例として. 経済地理学会関東支部例会修論発表会 (明治大学).
- 谷口博香 2016. 在日バングラデシュ人の生活史とエスニック空間の生成. 日本地理学会春季大会 (早稲田大学).
- 中井 瞳 2015. 高齢者を「呼び寄せる」街 横浜市都筑区. お茶の水地理学会 (お茶の水女子大学).
- 長谷川直子・横山俊一 2015. 一般向けに特化した地理学のアウトリーチの手段とはどのようなものがありうるか. 日本地球惑星科学連合大会 (幕張メッセ).
- 長谷川直子・横山俊一・伏見碩二 2015. 2015年ネパール地震の被害状況報告. 日本地球惑星科学連合大会 (幕張メッセ).
- 長谷川直子・横山俊一 2015. 地理学の一般普及の手段としてのバスガイド教本. 日本地理教育学会大会 (奈良教育大学).
- 長谷川直子・横山俊一 2015. 学生が作成した地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブックー地理の一般普及の視点から. 2015年日本地理学会秋季学術大会 (愛媛大学).
- 長谷川直子・横山俊一 2015. 大学生の「ご当地グルメ」に対する認識ー地理の一般普及の視点から. 2015年度日本地理学会秋季学術大会 (愛媛大学).
- 長谷川直子・横山俊一 2016. 地理学のアウトリーチを意識した授業とその成果発信. 2016年日本地理学会春季学術大会 (早稲田大学).
- 畠山輝雄・中村 努・西 律子・三浦尚子 2016. 自治体による地域包括ケアシステム構築に関わるアンケート調査結果報告. 日本地理学会春季学術大会 少子高齢化と地域問題研究グループ例会 (早稲田大学).
- Hayakawa, Y., Hasegawa, N. and Sato, T. 2015. Effectiveness of storytelling geospatial information for field trips. 2015年度日本地理学会秋季学術大会 (愛媛大学).
- 平野 悠 2016. 大都市都心地域における子どもの生活と社会ー空間関係の考察ー東京都中央区湾岸地区を事例に. 全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (東京学芸大学).
- 水野 勲 2015. 都市地理学における計量的研究のいくつかの論点. 2015年日本地理学会秋季学術大会 (愛媛大学).
- 宮澤 仁 2015. 地域の見える化と統計解析ー地域看護学へのGISの応用. 日本地域看護学会第18回学術集会 (パシフィコ横浜).
- 横山俊一・長谷川直子 2015. 地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブック作成の授業実践報告. 日本地理教育学会大会 (奈良教育大学).
- Yokoyama, S. and Hasegawa, N. 2015. A Comparison of the Characteristics of Japanese and Foreign Travel Guidebooks. IGU 2015 meetings (Moscow).
- 横山俊一・長谷川直子 2015. 地理的コンテンツを含んだコンビニ販売のペーパーバックについてー地理の一般普及の視点から. 2015年日本地理学会秋季学術大会 (愛媛大学).
- 横山俊一・長谷川直子 2015. バスガイド教本と刊行エリアについてー地理の一般普及の視点から. 2015年日本地理学会秋季学術大会 (愛媛大学).